

OB会報

湘南サッカー一部OB会報 第22号

湘南サッカー

OB会副会長

36回

井上 孝

5、6年前になるだろうか、私の勤務する大学に、当時日本サッカー協会会長の長沼健氏がいらしたことがあった。大学サッカー部に関わっていたこともあって、監督からご紹介しますといわれて氏にお会いした。監督から、私が湘南高校のサッカー部だったと聞かされていた長沼さん、「湘南でサッカーをなさっていたそうで、たいしたご経歴だ、監督も心強いですねえ！」などと考えらる感心されて、こちらがすっかり恐縮してしまった（監督と長沼氏は広島大付属高の同窓生）。それからまた、浦和レッズのGMだった元日本代表のGK横山謙三氏がみえたときにも、やはり紹介されたが、同氏とは同学年で、1960年の関東大会準決勝戦で対戦した間柄なので、その話になり、これには今度は本学の監督が奇遇にびつくりされた（因みに、この試合、延長でも決着がつかずに、抽選でわれわれが決勝戦に進んだが、横山氏曰く、わがサッカー歴の屈辱の一つ、

だそうである）。こうした、サッカー界の有力者と対等の（？）話ができるのも、湘南でサッカーをやっていたおかげであるが、しかし、ことはサッカーに現在関わっている人たちがばかりではない。実に多くの場面で、「湘南サッカー」の威力に接し、その恩恵に与るのである。

われわれは、さまざまな分野で仕事をしてきたり、また現在している。かつてサッカーをしていたという経歴は、そうした場で接する多くの相手にスポーツマンだという印象を与えるし、現今のサッカー熱のおかげで、いっそう尊敬の目（？）でみられることになる。同時にまた、「湘南でサッカー」も、大いに恩恵を蒙る。ひとつは戦前からの伝統で、とりわけ長沼氏のような年配の方からは、全国制覇に代表される名門湘南サッカーへの尊敬の念で、その後に続く者たちもまた同列視されることである。もちろん、忘れたころに実現してくれる後輩諸君の全国大会で

の活躍がこの伝統に大いなる貢献をしてくれることもありがたい。もうひとつは、学力面でも名声のある学校におけるサッカーということがある。古い言い方をすれば、文武両道であり、これまたその体現者とみられる。

現在、湘南のOBはさまざまな年齢・大会レベルでチームをつくり、大活躍している。一高校のサッカー部OBがこんなに多くのチームを常態的に結成している高校は日本中でも、きわめて珍しいのではないかとこの話が、OB間に出たことがある。以前にも書いたことだが、これはサッカーの魅力だけでは説明しきれないことである。私は、蹴球祭の貢献が大である、とかねて思っていた。高校生の時には、1月15日に集まってオジサン達がつれしように球を蹴るのを見て、不思議に思っていたが、考えてみれば、そのときに自分たちもあの歳になってやっぱり当然そうするだろうということが刷り込まれていたのかもしれない。同窓生という漠とした枠組みが、湘南のグラウンドという共通の場を介して、いっそう硬い結びつきになるのは、まったく不思議な気がする。高校でいえば在学3年間、直接接触するのは、自分の学年を含めて上下の5年間の部員たちである。ところが、たとえばベガサス

などに10年も20年も歳の違うメンバーが入ってきても、まったく違和感がないし、また大先輩に蹴球祭や定期戦などでお会いしても同様である。これが、多分、蹴球祭などで、面識があることなどに起因するのかもしれない(旧制中学の5年間は、この上下の幅でもいっそう有利だったのでしょう)。

今後、わが国はますます高齢化の進む社会になることがわかつている。しかも、これまでの日本の経済・社会の発展を支えてきた企業社会としてそういう文化は、低あるいは安定成長期に至り、高齢化と相俟って人生の過ごし方に、意識や行動の大きな転換を迫っていると思う。企業にいても、またそこを離れても、サッカーというスポーツやOB会という組織がこの過ごし方になんらかの貢献をしてくれたら素晴らしいと思う。そう思って、現役のサッカー部員の姿を見ると、いま無心に行っていることが将来本当に素晴らしいことになるのだと言っていてやりたいし、またOBがかれらを物心両面で支援することも、将来の仲間作りに重要なことだと思う。

永い人生の中で、わずか3〜5年間、あのグラウンドで汗を流してボールを追ったことが、こんなにも人生に彩を添えてくれようとは、考えてもみなか

った。私にとっては、湘南でサッカーをやってきたということは、大袈裟に言えば人生に大きな喜びをもたらしてくれたことになる。善き哉「湘南サッカー」!

会長退任と 次期会長推薦の辞

OB会会長 27回 柳川 明信

私はこの3年間OB会長を務めさせて頂きましたが今総会で辞退し、次期会長に現副会長の井上孝君(36回)をその後任に牧村英樹君(37回)を推薦します。

この3年間に二つの特筆すること巡り合わせた事に感謝しております。2002年(湘南サッカー創立80周年)を迎え1月13日に記念総会、OB懇親会、小田高OBとの記念試合懇親会、現役へのユニフォーム寄贈、OB会名簿の再作成、記念会報の発行等々の行事をOB会役員、各年代の世話役皆の協力で大いなる盛り上がりで行うことが出来た事。ついで2003年(湘南ペガサス創立25周年)。40〜70代の年代別チームの構成が確立し、同好の仲間の了解もあり現OB会組織を支える

中核体になり節目の年を迎えたこと。総務担当の篠田君(33回)の大変な努力により25年記念誌が発行でき、8月9日盛大な懇親会を皆で喜び合いました。創立発起人のひとりとして故岩淵さんから託された、現役を支援するOB会が組織化、継続化、する体制になったことを歴代の役員、仲間感謝しております。

さて 推薦する井上君は現ペガサス代表で故大内君とともにペガサス創成期を支えまた初めて専門の先生による指導となった宮原先生時代の教え子、旧制中学最後の入学でOBによる最後のコーチだった私から時代を引き継ぐ最適のリーダーです。

牧村君は宮原先生と鈴木先生にまたがる世代で次への流れをつなげます。またペガサス創立メンバーで現50代のリーダーとして自身の活発なプレイとあいまって、チームの主要な取りまとめ役をつとめています。

ともに見識、行動力、弁舌に優れており、この二人に加え副会長の小泉君(38回) 事務局長の相羽君(41回)、会計の武藤君(53回)、多忙な関君(48回)に代り運営を担当する横山君(45回)、さらに30代、20代チームの世話役を含め、OB会の運営、現役の支援を新しい企画で続けていって欲しいと願う次第です。

いと願う次第です。

勿論私もOBのひとりとして、現役を応援し、ペガサスのサポーターとして湘南サッカーを楽しみたいと思っています。3年間のご協力有難うございました。

ペガサス25年誌の発刊

ペガサスシニア 総務
33回 篠田 亮

湘南ペガサスサッカークラブは、昭和53年(1978)に発足し、今年満25才となりました。当時40代前半であった27回生 柳川明信さん(現OB会長)ほかが発起人で岩淵先生のご賛同もあって発足しました。

当初は、同世代チームが僅かで、折々親善ゲームを組む程度であったが、伝手を頼った呼掛けの効もあって次第にチーム数が増え、7年目の昭和59年(1984)に県40雀リーグが創設され活動の中心となりました。リーグ2年目の昭和60年(1985)には準優勝を飾り、同62、63年には県議長杯戦「トーナメント」に連続優勝を勝ち取ることが出来ました。40雀リーグは昭和61年(1986)には2部が発足す

るほどに隆盛の一途を辿りました。併せてペガサスも発展し、発足時会員が50代後半に達する一方、40代会員が続々と入会し、2チーム体制が可能となってきたので、平成3年（1991）、50代以上でシニアチームを編成、40雀リーグの2部に加入、活動を開始しました。翌4年には、50雀リーグへ向けての準備大会が始まり、還暦間近の会員に先行きの希望の火が灯った年であり、クラブの満15才を迎えて「湘南ペガサスのあゆみへ結成より15年」が発刊されました。発足時からマネージメントの殆どを引受けてこられた31回生大内健嗣さんが、この第一集の編集に汗を流してくれました。奇しくも、昭和55年3月4日に他界された岩淵二郎先生の13回忌の年にあたり、発足時、先生を囲んで催された初ゲームと祝宴の様子などが収録されています。

今回の記念誌は、その後の平成5年から14年までの10年間の実績を記録したものです。県40雀リーグは、平成8年（1996）には3部リーグ設置まで拡大し、50雀リーグが平成9年にスタートしました。クラブにおいては、全国OB大会、通称名門中学大会、刈谷スーパーエイジサッカー大会などに適齢者が旧制中学OBチームに参加する形の60歳代の活動が本格化し、平成

12年（2000）、ペガサス60として正式に発足しました。

全国ベースでも、日本協会主催の50代の第1回全国シニアサッカー大会が平成14年に発足、前年県50雀リーグ優勝チームとして県代表の資格で関東予選大会に出場しました。60代の全国OB大会も平成12年に日本協会主催全国シニア（60以上）となり、翌13年からペガサス60として参加しております。

このようにクラブは、3チーム約100人の会員を擁するまでに発展しましたが、この間一貫してクラブの運営に献身・お骨折り下さった大内さんが平成13年1月21日早世（享年64才）され、第1集後10年の節目でもあり、追悼の意も込めて発刊の運びとなりました。高年齢会員に縁の深い桑田孝前OB会長、過半の会員をご薫陶下さった鈴木中先生のご祝詞を納めております。会員と母校、県・郡市協会など関係個所へ配付致しましたが、当クラブへのご関心を寄せて頂きたく、近く「湘南サッカー」ホームページに登載の予定です。お目に触れることを期待しております。

今年8月9日 桑田様、宮原孝雄、鈴木、清水好郎の3先生をお招きして、ささやかな祝賀会を催しました。将来クラブでグラウンドを持つ夢を語

るなど大いに盛りまりました。それは遠大に過ぎるとしても、全国に覇を称えることを夢想しております。サッカーから遠ざかっていた方、40代になろうとする方の参入を期待しております。なおこの発展を、湘南高校OB以外の多数の会員が支えてくれたことを報告致します。

ペガサス60の活動について

30回 中原 弘巳

今年から神奈川の60雀リーグ戦が昨年のプレ大会に続いて5チームで始まりました。3月には清水でのスーパーシニア大会がこれも新規にプレ大会として行われました。このように60の大会が親善試合から組織的な試合になって来ています。

40、50も含めたシニアの全国大会が定着化し、神奈川のシニアリーグを全国大会に繋げようとしていますので、我々としても関心を持っておくのが良いと思います。最近のシニア全国大会の状況を紹介しておきます。40は日体協主催である総合スポーツ大会である「日本マスターズ」の中の競技として

行われています。50は日本サッカー協会主催「全国シニア（50歳以上）大会」です。いずれも神奈川県予選、関東予選をやります。このような予選会に参加して、目標を持って試合をすることも良いことと思います。昨年はペガサス50が県予選で勝ち、全国シニアの関東予選まで行きました。50については現行のシニアリーグを県予選の1部とすることを検討しています。他に50の全国大会として、スポレクがあり、今年はペガサス50がシニアリーグ1位チームとして県代表となり全国大会に出場しました。オープン参加では40、50とも古河の大会があります。

60は前述の県リーグ、清水の大会と、従来からの全国シニア（60歳以上）、刈谷、菅平、古河、関東Gリーグと多くの大会に参加しています。

ペガサス60の今年の活動状況は、上記の大会と練習試合で合計41試合を行い、25勝10敗6分けでした。日数としては延べ25日となります。第1回の県60雀リーグでは優勝しています。関東や全国大会参加を通して、県外チームとの交流を行っているのも60の特徴です。6月にはペガサスの9人がSOIのスエーデン遠征に参加し、一昨年のオーストラリア、昨年のイギリス遠征に続いて海外交流も行っています。

今年の試合では試合が続いてメンバー集めに苦労する一方、20名以上の参加者がある試合もありました。60以上になっても楽しくチームとしてまた個人としてサッカーを続けるためのポイントとして、①試合であるからにはやはり勝つことが満足感にも繋がること、②全員がプレイに参加して、生涯スポーツとしてサッカーを楽しみたいこと、③年齢などプレイヤーのレベルを合わせる、が考えられます。そのためには、種々の内容の試合を計画することが必要だと思います。大会によっては65歳以上とか、67歳以上の試合、そしてロイヤルゲームを設けるようになっていきます。このように湘南ペガサスを生涯を通してサッカーを楽しめる場として活動して行きたいと思っています。

11月24日にFUSを附属、湘南2校の50歳以上のOBで行いました。湘南OBが集まる良い機会になっています。多くの方の参加をお願いします。来年は11月23日（祝日）開催です。

ペガサスシニアチーム の活動を振り返って

37回 牧村 英樹

湘南ペガサスシニアチームは「同ジニアチーム」と「同60代チーム」の間に位置するチームとして、総勢38名にて活動しており、神奈川県四十雀リーグ戦と五十雀リーグ戦とに参加をし、その間に行われる県議杯争奪戦・全国大会出場をかけてのトーナメント戦・古河市で行われているマスタース大会などに参加をしています。年間を通して試合の無い週が珍しいと思われる程フルにサッカーをエンジョイしています。来年はリーグの体制も変わる見通しであり、場合によっては当チームを二チーム体制にしていく可能性も考えられることから、是非湘南サッカー部OBの中で久し振りにだけ一緒にボールを蹴ろうという方が一人でも多く出てこられる事を期待致しております。是非一緒にサッカーをやるうではありませんか。

この一年間の活動を振り返り「四十雀リーグ戦」では一世代若い層のリーグに参加しているにも拘わらず4位と

いう結果はとても立派だと言えると思います。ここでは「五十雀リーグ戦」について、神奈川県代表として出場した「全国スボレク大会」（香川県）について、ご紹介をさせて頂きたいと思っています。

まずは五十雀リーグ戦ですが、4月26日の対県庁チームとの初戦を皮切りに11月22日の小田原チームとの最終戦をもって終了しましたが年間を通して13チームと対戦しました。14年度は一つの引き分けを除いて全勝をし、ほぼ完全優勝を飾ったわけですが、今年は残念ながら7勝3分け3敗の6位といった意に反した結果で終わりました。この原因としていくつかの事が考えられると思いますので、下記してみたいと思います。

1・幾つかのチームが「打倒湘南ペガサス」という事で50〜52歳の選手、つまりこのリーグでは最若手を集めて強化を図ってきた事により、平均年齢が多少高い我がチームがスタミナ面で負けしてしまい苦戦するケースが増えた。

2・湘南ペガサスチームのカラーでもあり良いところでもあると思いますが、試合に参加した人は必ず出場してもらう事を原則としている為、必ずしも勝負だけに拘れない要素を抱えている事。

3・最たる原因は監督である私の責任に負うところが大きいのではと感じていますが、それは体力勝負のサッカーに一部限界を感じた為、パス回しを中心としたサッカースタイルにチームを変えようと推奨し、試合前の練習にワンタッチパスの練習ゲームを取り入れたり、やたらとパスをパスをと言いつけた事により、今までに無い良い一面がでてきたものの、一方でスタミナがあるうちは良くボールが回るが、疲れが出てくると急に回らなくなってしまうといった中途半端な状態のゲームが多く見られた。パスを中心としたもっと楽なサッカーをしようと言い続けた事が、前年は徹底されていた敵に対するマークやシステムが今年は二の次になってしまった。

以上のような事が考えられます。

分析・反省を列挙しましたが、勝負に拘りながら一方では親睦を大切にしたりリーグ戦での戦いは終わってみれば前年のような胸上げこそなかったものの、一試合一試合が悲喜交々の連続で、サッカーをやっていればこそその素晴らしい人生の一ページを、メンバーの一人一人が記す事が出来たのではないかと思います。

さて、昨年は神奈川県選抜チームを破り県代表として、ワールドカップ時力

メルーンの練習Gでもあった富士吉田で行われた関東大会への出場といった忘れられない思い出がありました。今年、昨年のリーグ戦優勝のご褒美として、再び県代表として香川県での「全国スポレク大会」出場の機会に恵まれました。開会式では全国48都道府県から16,000名の各種スポーツ代表選手が勢揃いをし、地元の伝統芸能の披露を始めとした大変な歓迎を受けました。11月1日～4日までの3泊4日というチームにとって初めての長期遠征となりました。18名の枠に対し参加希望者21名でしたので全員で参加出場しました。試合内容は湘南サッカーのホームページに載っておりますので詳細は避けたいと思いますが、次のような思い出深い楽しい遠征となりました。

11月1日 飛行機・新幹線・深夜バスにて各自現地集合をする。炎天下の開会式に参加し各種セレモニーによる歓迎を受ける。夕方は、夕食が目的で集合した居酒屋で、何時の間にか翌日の試合の事前祝勝会の大義名分の元、宴会に早代わり。大いに盛り上がる!!

11月2日 「愛知県選抜チーム」と対戦前半1-0とリード。がしかし、後半は前日の事前祝勝会の疲れからスタミナ切れか・・・善戦及ばず1-3

の逆転負け！実のところ相手チームは元日本リーグ時代のトヨタの選手が中心であり、出場選手の年齢は50～52歳に集中。負けて止む無し！！！宿舎に戻ってから気分転換にダブルスのテニス大会を賞金付で実施する賞金獲得を目指してほぼ全員参加。大いに盛り上がる！！！さて、続いて事前に予約していた三木町における唯一の居酒屋で大宴会！！！同席した香川県代表チームの人からの差し入れの酒一升ビン3本もあつというまにからっぽ。

11月3日 「新潟県代表チーム」と対戦なんと4-0で圧勝！！！湘南ペガサスチームの良い面が全て出る！よくもまああれだけ飲んで！！さて、夕方から高松市内の小料理屋で今度こそ祝勝会！！！勢いがあまって二次会へ！！神奈川県代表としてこれで良いのか・・・お陰で夜はぐっすり。

11月4日 「宮崎県選抜チーム」と対戦4日間休みが取れないメンバーが一部帰った為、怪我人を入れてもぎりの人数。3日間連続の宴会の疲れも手伝って0-1で負け。たかが3試合目でありながら、何故か皆の動きが悪い！！！仕方なし！！いずれにしても、現地のユニークな町長さんを始めとして役場の皆さん、そしてボラ

ンティアの皆さんの、とても心温まる対応を頂きありがとうございました。そして全員これでもかというくらい毎日無料の讃岐うどんを食べさせられた事も忘れられない思い出となりました。これらの新たな体験と楽しい思い出が我々のアルバムの一ページに加わりましたのも、これもサッカーという素晴らしいスポーツと良き仲間であるこのチームのお陰と感謝する次第です。

以上、15年度のチーム活動の一面を報告させて頂きました。

最後に大過なくこの一年が過ぎましたと申し上げたいところではありますが、通信会員の関根夫さんが病にてご逝去されました事大変残念であると共に心よりお悔やみ申し上げる次第であります。

四十雀シニア最後の シーズンを堂々4位

45回 浅倉 泰

今シーズンの開始にあたり、郡市連盟が来シーズンから四十雀リーグと五十雀リーグの二重登録を認めないとい

う方針を打ち出したため、1名を除き五十雀とメンバーが重複している我が四十雀シニアは今シーズン限りということになりました。

最後のシーズンを有終の美で飾りたいと皆張り切って試合に臨みました。

その結果5勝5敗、四十雀リーグ3部Aの11チーム中4位とこれまでにない立派な成績でリーグを終了しました。印象に残る2試合の実況中継をもって、活動報告とさせていただきます。(氏名敬称略とさせていただきます。)

【9月14日 湘南ペガサス 1-0 ウィットマスタース】

現在首位のウィットを迎え、先週の惨敗の反省からツートップで、中盤を厚くして試合に臨みました。

試合開始後5分位で、ペナルティエリアから少し外側で、相手がクリアするボールを藤田が横からボールをさらい、相手がそのままキックしたため、キッキングでFKを得ました。これを藤田がGKの頭の上を抜いて見事な先取点となりました。ペガサスにとっては理想的な先取点です。これまでも勝ち試合は全て先取点を奪っています。

その後は相手の攻勢が強まり、ペガサスは攻めの形が作れません。相手の左サイドからの攻撃でパスを繋かれ右サ

イドまで流れフリーで上がってきたMFに決定的なシュートを打たれましたが、これを田中がファインセーブ。その後ペナルティエリアでこぼれたボールをスライディングでクリアしましたが、飛び込んできたFWが倒れてPKを取られました。このPKをまた田中が弾いてファインセーブ。何とか前半を無失点でしのぎました。後半に入っ

て、守勢一方となりましたが皆集中を切らさず、相手の単調な攻めにも助けられて、また前半にも増して田中の前への出足が良く、相手FWと激突しながらも、ゴールを最後まで死守しました。田中の肋骨は大丈夫でしょうか。心配です。(やはりひびが入っていました) 昨年もウィットとは引き分けていますが、強いチームと対戦するときには気合いの入りが違うのでしょうか、全員で勝ち取った勝利として記憶に残るゲームが出来ました。

【10月5日 湘南ペガサス 3-2 FC赤羽根】

今シーズンの四十雀リーグの最終戦であると同時にシニアとしての四十雀リーグの最終戦となりました。追加の日程と言うこともあり、参加者が少なく、急遽参加依頼した岡崎、孫の運動会をさぼって駆けつけた藤田、山本、

応援の折原を含めて何とか15人が集まり、目標勝率5割を達成すべく、皆合いが入っていました。

前半から、バランズ良く攻めて、パスが3本4本繋がってシュートまで行くパターンが続く非常にいい流れで進みました。その流れの中、左サイドからのセンターリングを坪井がシュート、このシュートがバーに当たり跳ね返ったボールに、右ゴールポスト前に走り込んだ西田がヘディングで流し込み先制点を奪いました。その後も攻め続け、右コーナーキックに岡崎がショートコーナーでキッカーの藤田に戻し、これを藤田が得意の左足で角度のないところからシュート。GKの頭を越えて2点目を取りました。

これはペガサスの勝ちパターンと油断したところ、相手右サイドから切り込んできてセンターリングかと思ったところでシュートされ、これがGK前でイレギュラーし1点返されました。

前半は2-1で終了。後半もペガサスが押し気味でゲームが進みましたが、相手センターリングのクリアボールを拾われシュート。これがBKの手に当たりコースが変わったためPKを取られました。これを決められて、同点となりました。そこからペガサスの粘り、左サイドフリーキックからゴール前走

り込んだフリーの北原へボールが渡り、前に出てきたGKの頭の上をループで抜いて勝ち越し点を上げました。この1点を守り抜きゲーム終了。非常に中身の濃い試合でした。

この試合を最後に四十雀での試合はなくなるわけですが、四十雀の試合で勝ったときの充実感を味わえなくなるのは残念に思います。

当日参加された山本は第1回大会から20年連続で四十雀リーグに参戦したという輝かしい記録を最後に四十雀リーグから引退されることになりました。

ペガサス・ジュニア 二十五年目の記憶

49回 二元松 経男

4月の郡市リーグ二十周年記念大会、8月のペガサス二十五周年イベント等々いっなくなっていくイベントの多い一年でしたが、今年は代表(連絡・会計担当)石郷岡(51回)、マネージャー(渉外・審判担当)五代(51回)、監督元松、ゲームキャプテン遠見(享)で活動をしました。

昨年は郡市リーグの最終戦まで3部降

格を争い、多くの先輩方に心配をおかけしましたが、今年は心機一転「サッカーを楽しむこと」を最大の目標としてリーグ戦に臨みました。幸い、高橋(正)(51回)松永・志水(52回)田辺(52回水泳部)高橋(透)・吉川・田村(敏)の七氏が新規加入し、新戦力のフレッシュさと、昨年の不完全燃焼をバネとした全員の気力と意気込みで、幸先良くリーグ戦を迎えられました。

リーグ開幕戦の相手は前年度3位の浅野クラブでした。前からのプレスでゲームを支配し、2年目水土さんのリーグ戦初得点を皮切りに、サイドからの連続攻撃と堅実なディフェンスで湘南らしいサッカーが復活し、4-0と快勝して好スタートを切りました。その後のリーグ前半戦は4位から8位までが勝ち点で並ぶような混戦模様が続きました。9月の後半戦初戦では湘南OBの久保さん(55回)率いる県庁OBと対戦し、まさかの敗戦となり作戦の練り直しです。体力の余りない我がチームがダブルボランチによる4-4-1-2システムで戦うと、どうしても中盤が空いてしまい敵しいということになり、4-1-1-4-1に変更すること、中盤の支配率を高めることとしました。

試合には常時18、19名が参加し、ディフェンス陣も層が厚くなり、誰が交代しても中盤を支配できれば随分と楽しいゲーム展開となりました。こうして、後半戦はこのシステム変更と参加者全員の志気の高さで、好ゲームが続き、リーグ戦は4勝4敗3分けて12チーム中7位とまずまずの結果となりました。新規加入のメンバーはじめ、全員の意気が合い始めた後半戦は、毎回楽しいサッカーが続き、年初めの目標をまずはクリアしたかと思えます。来年は更なるシステムアップで、より楽しい全員参加のチームとしたいと思えます。ちなみに今期の登録者数は33名で、リーグ戦の得点者は7得点の水土さんはじめ5名でした。アシストは2ポイントの高橋(透)、中村(54回)、越智さんはじめ9名と、どこからでも点に絡めるチームに変身しつつあることも楽しみです。一方、悲しい知らせもありました。チームの要として毎試合活躍されていた大内徹さんが6月に急逝され、試合前に全員で黙祷を捧げたことを記しておきます。

リーグ戦を終えた11月23・24日には恒例となったマスターズサッカー御殿場大会に参加しました。初日が17名、2日目が21名と好調な後半戦の余韻のま

ま、過去最多の参加者で2日間のサッカーを楽しみました。初日は秋晴れの富士山の紅葉を眺めながら、人工芝でカマフラード、名東おやじクラブと対戦し1勝1分けでした。全ての準備を一人で切り回してくれた幹事の五代さんが、すばらしいジャンプヘッドやアシストで全得点にからみ初日のヒーローとなりました。試合後の温泉と地ビールと美味しい肉料理はもう恒例となりましたが、その後の夜のミーティングも御殿場初の全員参加となり、五代さんのヒーロー独演会や今後のペガサスを語る場面など、楽しく有意義な一時が過ぎました。

2日目は曇り空ながら、綺麗な天然芝のピッチでデュオ、スターズと対戦しました。2試合とも、応援参加していただいたシニアの皆さんとジュニアのベテラン組が前半を、若手が後半を戦い、1勝1分けとなりました。コードネームうなぎこと田中さん(53回)の2得点をはじめ、水土さん、今期初参加の新倉さん(53回)、シニアの青木さん(48回)、再来年ジュニア入会予定の大沼君(59回)が得点を重ね、2日間で2勝2分けのブロック優勝と、嬉しい2日間でした。

こんなジュニアの1年でしたが、まだまだサッカーを極め足りずに、楽し

く激しくサッカーを語り合っているチームメイトたちです。来年も楽しもう……!

湘南クラブ 2003年度活動報告

71回 歌野 寧

メンバーの大半も社会人となり、どんな小さなカテゴリー、大会であれ優勝をする“ということの稀少さを少しずつ感じながら、2003年度シーズンが開幕。恒例の郡市大会予選が今季の幕開け。このチームとなって7年目、嬉しい初の郡市大会出場を決め、幸先の良いスタートとなる。

5月から始まった1部リーグでは驚くほどの快進撃。山武に2-1、タクティクスに5-0、難敵FCハナブサには3-1。7月に入り大学生チームのONZEに2-0。開幕から4連勝として前半戦の最大の山場、昨年優勝のSFCとの一戦を迎える。

ボール支配は技術力に勝るSFC。しかしそれは慣れた光景。技術で相手を凌駕出来ない、その現実的な自覚が湘南の持ち味であり、守備方への自信がチームの拠り所である。この試合も

守備からカウンターで先制点。この後は次々にカウンターが“ハマる”。油断から2点を与えるも試合は5-2の大勝。これで5連勝。マジックを1とした。

ここでリーグは一時中断、市民総体が始まる。組み分けに恵まれませんなりと準決勝進出。準決勝も大勝し、同日の決勝戦ではSFCとの再戦となった。準決勝から2試合分の休みを取った相手に対し、こちらは1試合分。この条件が決勝では苦しい展開への布石となる。

非常に張り詰めた試合は互いに譲らず0-0で終了。ゴールデンゴール方式の延長戦となる。この辺りから湘南の選手が立て続けに足を撃り始める。最後は5人ほどが撃ったろうか。ケガ人まで送り込むが、延長後半はサンドバック状態。いつ負けてもおかしくない展開であった。

それでも運も味方し、PKまであと僅か。ここでエースの桜井が咆える。クロスボールが跳ね返される。高く上がったボールは桜井のやや後方へ。そのボールにエースはバックステップしながら右足を一閃。ペナルティエリア外から放たれたそのボールは、相手GKに動く余地を与えずネットに突き刺さった。起死回生、文字通りゴールデ

ンなゴールが決まり市民総体制覇！
チーム史上最も劇的なゴールでの戴冠となった。

そして10月にリーグ再開。勝てば優勝のずんどこべろんちよ戦。市民総体の勢いそのままに3-0の快勝で3年ぶりのリーグ制覇。ビール掛けで祝賀会をしメモリアルな瞬間となった。

そしていよいよ藤沢での2つのタイトルを引き下げ、郡市大会への初出場。緒戦は5-0の快勝。2回戦では早くも昨年優勝の伊勢原代表、テンパイスFCと対戦。前半2分に我らのGKが退場処分するなど不利な展開の中、皆が必死の反抗を示すも1-2で惜敗。初挑戦は2回戦での撤退となってしまう。

チームメンバーは25-27歳が中心。今後はそれぞれの生活、そして体力面からも多くのタイトルは望めなくなっていく、そういった意識を皆が持ち始めたシーズンで、2つのタイトルを取れたことは、とても喜ばしいことである。充実した湘南クラブの2003年度シーズンと言えるのではないかな。

「トトカルチョ湘南」 年間活動報告

75回 友松 亮

我々トトカルチョ湘南が参加している、神奈川県社会人リーグ（2部）の2003年度リーグ戦は11月24日に全日程を無事終了しました。成績は6勝4敗1分、勝点18で2部のAブロック4位（規定違反によるペナルティのため、本来は勝点19で3位）でした。ここでまず始めに今季を振り返ってみます。シーズン序盤は悔いが残る戦いの連続でした。開幕から4試合の成績は、●↓△↓●↓●と黒星先行でした。内容的には競ってはいいるのですが、あと一歩及ばず結果は1点差の敗戦という試合が続きました。しかし、シーズン中盤に入りチームとしての完成度が高くなってくると、試合内容も徐々に良くなってきた、それは自然と結果にも現れてきました。事実、シーズン後半戦7試合は6勝1敗と大きく勝ち越しています。また、特筆すべき点は、11試合中9試合が1点差の勝負だったことです。勝った試合も負けた試合も一点差というのは、現役高校生時代の頃と変わらず、良い意味で「湘南」の持ち味を活かしたチームになっていると思います。

次に、今季の成績が現在の我がチームにとってどのような意義があるかについて、私なりに考えてみたいと思います。私がトトカルチョに加入してから今年で丸3年が経ちました。加入当初と現在ではメンバーも大きく変わりました。チーム内で「若手」と呼ばれる20歳前後の選手も今では13人に増え、チームの約半数を占めるようになっていきます。このように、トトカルチョは現在変革期をむかえています。試合を重ねるごとにチームとして成長している、いわゆる発展途上の段階です。そのような状況の中で、リーグ4位という結果は決して悪いものではないと思います。しかし、あくまで目標は神奈川県1部リーグ昇格ですので、来期以降も常に高い意識を持ってリーグ戦に臨んでいきたいと皆考えています。

そこで、このような変革期にあるチームにとって、目標を達成するために一番重要な課題は何かを考えてみると、チーム内でのコミュニケーションを充実させることだと思っています。目標設定、勝ち負けに対する考え方、試合の戦い方などのメンタル的な部分と、試合中の連携などの技術的な部分の両面で

のコミュニケーションを充実させることが、チームを勝利に導く上で最も重要な要因の一つだと考えられます。現に、今シーズン序盤で一番問題になったのがこのコミュニケーション不足です。若手と熟年世代、新メンバーと元のメンバーがコミュニケーションを取り合うことは、日常顔を会わせることがない我がチームにおいて難題であり、試合を重ねていくことでしかこれを解消することは出来ませんでした。日常の限られた時間の中でいかにうまくコミュニケーションを取り合い、一つの目標に向かってチーム全員が一丸となつてリーグ戦に臨んでいけるかが今後の最重要課題だと思います。

最後になりましたが、私は常々「トトカルチョ湘南」というチームの存在の大きさを強く感じています。同じ湘南高校卒の仲間たちとサッカーができる喜びは、他の何物にも変えられない大切なものです。私はこのチームを皆と共に、今後さらに一回りも二回りも大きく成長させていきたいと考えています。

湘南サッカーに想う

元顧問 鈴木 中

今年の現役の活動結果はHP等で記されているのでここには載せないが既に三年生は引退し 新メンバーに代わったが 全国大会予選まで戦ってきたチームは非常に力のある良いチームであったと思う。残念ながら全国大会予選では上まで勝ち上がらなかったが、ベスト4のチームと比べてもそれ程見劣りするチームでは無かった。ただ悲しいかな駒不足で、誰か一枚怪我で欠けると補充が利かず 途中敗退したが彼等は胸を張って卒業して行くだろうと思っている。駒不足は毎年のことだが、いつかメンバーが揃い力あるチームが出来ると期待しながら毎年グラウンドに足が向いて行く。OBのホームページに載せている「中メール」もすでに40回を越えだんだん内容に限り界が来ているが 現役が強くなれば又書くことも増えてくるだろうと思っ

いる。

全国の予選に平行して新人戦の湘南地区予選が行われ 既に予選リーグも

終わり湘南地区で何とか最終予選で勝ち上がり 1月の中旬から行なわれる県の中央大会へ駒を進める事が出来た。県大会へは毎年のように行きながら、今一步ベスト4への勝ち上がりは少ない。200校を越す参加校の中でベスト16は立派な結果かも知れないがOB諸氏はやはり「優勝」を期待していると思う。無理だと思えばそれまでだが 私は「為せば成る」と常に思っている。

湘南のグラウンドに立つと何故か私は「ホット」する。他人には解らない事であって 28年間毎日立っていた場所が私にとつては心温まる場所なのかも知れない。そして毎日のように繰り返し繰り返して「百万井」同じ事を言ってきたような気がする。指導者にとって一番大事なのは「諦めない」「不可能はない」と信ずることかもしれない。そう思いながら湘南を去って18年も過ぎてしまった。最近では以前より増して「古典的なサッカー」が好きになってきた。「クラマーさん」が言っていたサッカーが今でも通用すると思っ

今年強くなってきたJリーグの「浦

和レッズ」の監督オフトが、Jの選手を相手にこの「基本に忠実」なサッカーをやっているが、これは正解だと私思う。プロであればなおさらこの基本を大事にして、より正確で的確な判断が出来るサッカーを選手に要求する監督が本当のプロと言えるのではないだろうか。

最後になりますが、昨年は「現役のスペイン遠征」にOB会から多額の寄付を仰ぎながら、戦争のため中止になってしま大変迷惑をかけました。又来年も可能ならば実施するかも知れませんが、その節は宜しく願います。

なお直接は湘南には関係ありませんが「神奈川県サッカー協会」が「社団法人」になります。これからもOB諸氏には(賛助会員の依頼等)でお世話になると思いますが 宜しくご協力下さる様 御願い致します。

〈編集部注〉「スペイン遠征」への寄付金の収支報告は、会計報告にて別途記されております。

2003年を振り返って

監督 清水 好郎

今年度はまずスペイン遠征がイラク戦争で中止になったことで、チームに暗雲が降りました。春休みの練習試合を探すのが大変であり、選手達のモチベーションの低下から人がでるたびに、スペインに行っていればということになってしまいました。

関東予選では、ベスト8を決めの試合で審判のフェアプレイ精神を無視した試合運営でVゴール負けを喫しました。総体予選ではチームの攻守の中心選手が相手のラフタックルで足首を骨折し、日大藤沢にVゴール負けに終わりました。その後、チームのリズムが元に戻らず、一ヶ月後の選手権予選においても、どこかすっきりしないまま試合に臨み3回戦で敗退してしまいました。3年生中心のチームであったため、1、2年生の強化が遅れてしまい新人戦は県大会出場は果たしましたが残念ながらシードは取れませんでした。

現状の部員の技術はそこそこのレベルにありますが、基本技術である「止

めて蹴る「スピードが遅く、その技術の重要性を自覚していないようです。

また、集団の中でコミュニケーションをとることが下手であり、チームで何かを成功させる喜びを知らないように思えます。一人一人の長所・短所を理解しゲームを構築する感覚など、サッカーの楽しさを知らないと思います。パスで相手を抜く喜び、自分のキャパシティの中に相手を引き込みボールを奪う喜び。また、パスを出すような顔をしてドリブルした場合、味方が次の展開を読めないことが多いです。

練習の中でチーム戦術を習得するのはとても上手いのですが、その戦術ができない場合に自分たちで変化できるような応用能力が欠けていることが指導者としての悩みです。

15年前の選手達に比べるとゲームを見る量が少ないのかもしれませんが。ゴールのシーン、守るシーンをテレビで見ることが多いのですが、生のゲームを見る機会が少ないのではないのでしょうか。

04年度のチームには、個性の強い選手がいなかったため得点を取れる選手がいません。したがって、しっかりしたDFで速攻をしかけて、サイドからの攻撃が中心になるようです。シュート、シュート、ロングパスの充実とランニ

ングスピードを上げるトレーニング中心に強化しています。また、昨年行けなかったスペイン遠征も新年を迎えるまでには結論が出る見込みです。

学校の中は、生徒の気質、親の考え方、年々変化していきます。生徒は自分で判断し行動できなくなり、マニアックな生徒が多くなっています。勉強は自分でできなくなり塾に頼り、生活は親に頼るような甘えん坊さんが多くなっています。また来年度からは学区撤廃の動きもあり、スペイン遠征などを部活の特徴にして優秀なサッカー選手が集まってくることを期待しています。

高校サッカーも日々変化し、カテゴリー別の試合が多くなり試合数も増加し落ち着いて練習する時期がなくなり、若手のOBに指導、審判を依頼することとも多くなってきました。日頃のOB諸兄の多大な協力を得て充実した活動をおこなっています、今後もご指導、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

この一年間を 振り返って

主将 浅野 雅人

いつも僕達がサッカーを何不自由な

く出来る環境を整えてくださり本当にありがとうございます。サッカーを何不自由なく出来るということを心から幸せに感じ、日々努力していきたいと思っています。

この一年を振り返るとまず新人戦があり、県ベスト32という結果に終りました。この大会は自分たちがまだまだ実力不足ということを思い知らされた大会だったように感じています。そして三月、初の試みであり皆が心待ちにしていたスペイン遠征がイラク情勢悪化のため中止になるというアクシデントが起こりました。皆、大きなショックを受けたものの、春休み明けに始まる関東大会予選、そしてインターハイ予選に向けて必死に気持ちを切り替えました。また遠征の中止が決定になると先生がすぐに大学生や社会人との練習試合を組んでくださり、そこで必死に強い相手にくらくくことでどんなチームとも戦えるという自信を得た事が、関東大会予選とインターハイ予選の県ベスト16という結果につながったのではないかと思います。しかし選手権予選は二回戦敗退に終わりました。一年間を通しての課題であったセ

ットプレーからの失点をこの試合でもしてしまい、そのまま自分たちのサッカーが出来ず終ってしまいました。こ

のチームは相手選手から受けた反則の怪我で苦しみそのまま引退していった先輩や、審判の判定で苦しんだ試合もありましたが、皆がサッカーに対して真面目に取り組むいいチームだったと思います。新チームは新人戦予選を何とか勝ち抜き、新人戦県ベスト8という目標に向かい皆で頑張っています。このチームは個人としてもチームとしてもまだまだ能力が低いので、それをカバーするためにどうすれば強くなれるかを考え、必死に練習することで力を伸ばしていきたいと思っています。

最後にOBの方々、指導して下さる先生、僕達の体調をいつも管理し沢山の仕事をしてくれるマネージャー、家族、友達、チームメイト、全ての人に感謝の気持ちをもって努力したいと思うと思います。そして一人一人が自分自信を持てるような、チームメイトからも信頼されるような練習を日々行うようにと、**「湘南らしい」**試合が出来ると頑張りたいと思います。湘南サッカー部員であったことを誇りに思えるよう悔いのない一日一日を過ごしたいです。皆で国立競技場に立つことが先輩達と同じ僕達の夢です。これからよろしくおねがい致します。

平成14年度新人戦中央大会	
一回戦	1対0 市横須賀
二回戦	2対4 横浜商工
グループ三位決定戦	
0対1	茅ヶ崎北陵
平成15年度関東大会予選	
一回戦	2対1 逗子開成
二回戦	1対0 金井
三回戦	2対2 (6PK5)
横浜創学館(旧横浜商工)	
ブロック決勝 0対1v 光明相模原	
平成15年度高校総体予選	
二回戦	2対1 湘南学院
三回戦	0対0 (4PK1)
横浜立野	
四回戦	2対1 川崎北
ブロック決勝 1対0 大清水	
六回戦	1対2v 日大藤沢
平成15年度選手権予選	
二回戦	2対0 厚木
三回戦	0対2 慶応
平成15年度新人戦予選	
(リーグ戦)	
1対0	藤沢北・長後合同
1対0	湘南通信
2対2	藤沢北陵
0対0	七里ヶ浜
(代表決定戦)	
1対2	鎌倉
2対0	湘南台

<16年度会費納入の件>

15年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしく願いいたします。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付をお願いいたします。

・社会人	1口	5,000円
・学 生	1口	3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、下記銀行口座も受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行	本店	普通預金
口座番号	019166	
湘南高校サッカー部OB会		
武藤俊一	TEL	0466-34-9329

<平成15年度会計報告>

<収 入>

会費・寄付	1,198,313
繰り越し	15,181
利 子	7
計	1,213,501

<支 出>

現役寄付	250,000
蹴球祭	128,290
スペイン遠征補助	300,000
筑波大付属戦補助	30,000
夏合宿補助	50,000
通信・事務費	182,000
印刷費	147,000
通帳残	126,211
計	1,213,501

<スペイン遠征会計報告書>

残念ながら中止となりましたスペイン遠征会計について、現役から報告を受けておりますので、ここに報告いたします。なお、残金はOB会で一時預かり管理しております。

<寄付内訳>

OB会会費	300,000円
ペガサスシニア	30,000円
ペガサスジュニア	30,000円
OB有志	190,000円
合計	550,000円

<平成16年度湘南サッカーOB会予算案>

<収入見込み>

150名(社会人140名,学生10名)	
$90 \times 10,000 + 50 \times 5,000 + 10 \times 3,000 = 1,180,000$	
繰り越し金	126,211
計	1,306,211円

<支 出>

現役寄付及び遠征補助	600,000
印刷費	200,000
通信・事務費	180,000
蹴球祭・夏合宿	170,000
付属定期戦補助	30,000
予備費	126,211
	1,306,211円

<支 出>

JTBキャンセル料	38,320円
現地支払キャンセル料	89,990円
ペナント代	105,000円
打ち合わせ会議費	10,017円
土産・スタッフ衣服代他	97,000円
合計	340,327円

支出のうち、327円は現役負担とし、残金は、210,000円となります。

〔蹴球祭・総会のご案内〕

期日:1月11日(日) 場所;湘南高校(グラウンド、清明会館)

- (11:00～11:45) 幹事会(清明会館／和室)
12:00～12:30 総 会(清明会館／研修室)
12:30～13:45 食事および着替え・アップ(着替えは清明会館和室使用)
13:45～14:00 現役OB交歓会(グラウンド横本部テント付近)
14:00～16:00 OB紅白戦(グラウンド2面使用)

A面(校舎側) 40代以上

B面 若手OB

なお当日は新人戦中央大会試合会場となっていますので、
14時までグラウンドが使用できません。

第1試合 9:30～(前日10日に勝つと湘南の試合)

第2試合 11:00～

第3試合 12:30～

※本部受付はグラウンド横テント1ヶ所とします。(坂上は案内のみ)

本部には会長、事務局、鈴木先生がいるようにしますので、必ず立ち寄ってください。

※受付は総会終了後12:30から開設し、会費納入と引き換えに弁当を配布します。

※雨天の場合、体育館使用を検討しておりますので、シューズをご用意下さい。

〔ホームページアドレス〕

神奈川県サッカー協会

<http://www.kanagawa.fa.gr.jp/>

湘南サッカー部OB会

<http://www.shonan-soccer.com>

湯浅健二

<http://www.axisinc.co.jp/yuasa.html>

〔メールアドレス〕

鈴木中 先生

0517035801@jcom.home.ne.jp

武藤 俊一

m9329@cityfujisawa.ne.jp

横山 雅行

m-yokohama@heiwa-sangyo.co.jp

〔編集後記〕

本年度から事務局の一員となりました45回横山です。高校卒業後、殆どサッカーから離れていましたが、一昨年のFUSサッカー交流会に参加したのをきっかけにOB会活動に参加させていただきました。試合ではまったく活躍していませんが、なぜか飲み会では目立ち過ぎ、事務局の大任を仰せつかりました。事務局長の相羽さん、会計の武藤さん、前任の関さん他皆様のご協力により何とか1年目を過ごせましたことを改めて感謝申し上げます。次年度も、OB会発展のため、頑張りますのでよろしくお願いします。

45回 横山 雅行